

編集後記

ニ リヴィリスの或る短編を
ニ 読んでいて、こんな場面
ニ に出くわしました。「誰
がその憐れな教師を知っていよう？
三人と郭公だけだ。」文学賞を狙う無
名の作家の卵を皮肉ったことばで、
「三人と郭公 (Τρεις κι ο κούκος)」は
「ごく少数」を指しているそうです。
21号で水谷さんが書かれていたアリ
ストパネスの「三羽の郭公」とちょっ
と似ていて(鳥の数は違うのですが)、
こんなところも古代と何か繋がって
いるのかなと感じてしまいました。

今号は副会長石岡さんの、現代語の
語順に関する高度に専門的な言語学
論文に始まり、中世ビザンツの戸田さ
ん、古典の水谷さん、現代文学の福田
さん、現代詩・音楽の土居本さん、と
広い時代をカバーした御論考を載せ
ることができました。土居本さんと小
生の扱う対象がどちらも 1958 年とい
うのは全くの偶然なのですが、同じ時
期・同じ空間で、現代音楽の巨匠は大
詩人の作品に美しい土着の旋律をつ
けて脚光を浴び、一般の人々は文豪た
ちの連載リレーを楽しんでいたのだ
ですね。

次号以降も、時代を問わず、ギリシ
ヤの言語・文学・文化等の様々な側
面に光を当てる御投稿をお待ちして
おります。(橘)

留 学先のアテネから持って
きた荷物の中にコーヒー
専用の小ぶりのポットが
あります。知人から譲り受けて二十数
年になりますが、ふたり分の湯を沸か
すのに便利で今も現役です。ただ柄を
取り付けているねじが緩み締まらな
くなっているため、ぐらぐらする柄を
持って湯を注ぐのには、それなりのコ
ツが要ります。ポットの名称：ブリキ
(μπρίκι) は「鋳力」に由来するものと
早合点して四半世紀、確認しないで
いたのですが、最近、勘違いだったこと
に気づきました。トルコ語 *ibrik* が語
源で、「水差し」を意味するペルシャ
語まで遡ることができるとなりました。
長年の思い込みに呆れる一方で
「調理に不向きな鋳力が道具の名前
に？」という腑に落ちなさが解消され
たような気持です。

戸田さんと福田さんが新たに入会
され、今後の「プロピレア」に希望が
見えるようです。会の運営に携わる者、
また一研究者として、古道具ながら、
もう一度、ねじを締めなおし研鑽しな
ければと思います。

編集の正確さを期すために校正の
やり方を模索しています。お手伝いが
可能な方、また、方法等について、編
集部までご連絡ください。(佐藤)